

## 眞劍なる技術

工政會常務理事 倉橋藤次郎

前號に載せる筈であつた倉橋藤次郎氏の論文を時事に關するものにして差控へて居つたが其後同氏から時事に觸れないここの注意があつたので改めて本號に載せる事にしました。技術の力を感じる事氏の如くにして初めて人間として尊い事業の實行が出来るのだと思ひます。本文の題は記者が勝手につけたものである(記者)

昔、征服者、貴族、武士、僧侶、乃至之等に追従する者の手にのみ政治が執られた時分には、政治は限られた少數者の間に於ける特殊の技術であり、術策であつた。

今でもそう思つてゐるもの、又はそうしておきたいと思つてゐるものも少なくない、二千人か五千人かの大小舊式職業政治家、舊時代の治者階級の流れを汲むもの、昔の遺習から覺めてゐない一部民衆等。

然し立憲政治下に於ては、政治は政治のための政治でなく、政治家のための政治でも勿論なく、政治を行なふ區域内の住民の生活條件の圓滑なる配給を旨とするものでなければならぬ。

昔は橋をかける、道をつくる、家を建てる事なきに全く離れて、政治を云ふものがあつた今は橋をかける事、道をつくる事、家を建てる事、物を運ぶ事、等、夫れ等自身が政治である。

ミルクの値段を引下けて幼児の保健に資する事を、總選舉戰の第一標榜として當選せる英國下院議員がある。

ハウジング・プロブレム  
住宅問題は歐洲の總選舉毎の一大問題である。

殊に現代の政治に於て國政を地方自治政を問はず、最も多額の豫算を計上し、最も大なる仕事をするものは、建設工事で

ある。

道路、鐵道、河川、橋梁、港灣、上下水道、水力發電事業、建築、都市計劃、等、近世國家の政治の要諦は軍事費を減じて建設事業費、教育費、社會事業費を増すにあると解しても差支えない。

自治政に於ても然り、東京市におかれてゐる局を例示すれば、道路局、水道局、電氣局、土地整理局、臨時建築局、皆建設事業であり又は之に密接に關聯してゐる、他に社會局を云ふものが今一つあるが、餘り存在が顯著でない。

私は事業關係で上海に行く毎に、外人租界を統治する Municipal Council が市政局を譯されずして上海工務局を公譯されてゐる事を面白く見てゐる。

都市に限らず地方行政も亦これ程建設事業的である。

私は土木建築に従事、關係ある人達に、徒らに政治熱を煽らうとは思はない、無暗に代議士たり府縣市町村會議員たれ、官公吏たれは懲慙しない。唯私が工事畫報を通じて、建設事業關係の諸士に望む所は、各位がその地位を職掌に拘はらず、建設事業の國家社會に於ける重大なる地位を自覺し、自重せられん事である。

今一つ私の希望は、一般世人に對し、斯様に重大なる意義ある建設事業の知識を普及する事である、殊に普遍化を必要とする關係上、文學と共に繪畫、圖表、寫真による夫れである

## 文化住宅研究會

文化住宅研究會は能瀬久一郎氏の經營になるのである。今回同會から住宅パンフレット第一編として「小住宅十種」が發表された。菊半截の十六頁の小冊子乍ら、柔かい色アート紙に趣味ある膽刷で中流住宅十種の圖案が掲載されてゐる。まここに氣品ある出版である

唯常に我々の物足りなく感ずる事は説明のない事である。展覧会の圖案を見る様に唯、頁をくる丈では餘りにアツクないと思ふ。著者としては同じ様な文句を同じ様に列べる事を無趣味に思はるゝかも知れないが、著者と同一な環境に居ない多くの読者の爲めにも便宜を與へて貰い度いものである。次に能瀬氏が文化住宅研究會の一種の宣言書を紹介します（因に此のパンフレットは一部税共十二錢で東京市外野方町下沼袋一五八〇文化住宅研究會から送つてくれます）

從來建てられてあります日本の住宅を見ますにその多くが舊きはあまりに非衛生的に新しきは又あまりに俗悪に共に「甲羅に似ぬ蟹の穴」の感を禁じ得ません。「住居は心を正す」は夏目漱石の言葉であります。眞に至言云ふべきであります。新日本に新日本の心を心して生きるものの住宅は又新日本人に適はしいものでなくてはならないと思ひます居住者の生活様式に適合し、その趣味性に合致すべく清新にしてしかも藝術味豊かにつくられた住宅それこそ新日本人の要求するところのものであり私共の文化住宅と稱するところのものであります。

本冊子の十はすべて私共の所謂文化住宅であり又小住宅建築上の私共の主張を披瀝したものであります。設計に實際建築に將言論に私共の主張が漸次認められて来たことは愉快の上もないことであります。同胞の生活に眞の幸福を招來するここに私共のこの努力が些しでも役立つことを最上のよろこびとして益々勵みたいと思へて居ります。（文化住宅研究會 能瀬久一郎 杉山市太郎 多田徳一 安田統一）

## 土 木 學 會

三月十四日土木學會に於て復興局囑託米國フアンデーション會社技師ヒューズ氏の講演が

あつた。米國ニューヨーク市では四十階さか五十階さかの高層建築をして空中利用を盛んにしてをるが又此の反面に地下をも廣く利用されつゝある事は其の地下鐵道の發達に依り人の知る處である。然るに地下交通以外に今はビルディングの地下室を多く利用する様になつた。此點に關する講演であつて、要旨はニューヨークの或建築工事で地下室六階迄を建造する事となつて水面以下六十尺迄掘下ける爲めに三百萬弗の工費でニューマチック、ケーソンのコツハーダムを造つて水の浸透を防ぎ基礎掘を完完にする事が出來た云ふのであつたが参考の圖面も寫眞も無い唯の講演としては淋しいものであつた。次の内務技師金森誠之氏の「工事狀況の映畫化」云ふ講演は土木學會に於けるものとしては實に異彩あるものであつた。それは氏の講演後に映寫された「荒川の水を治めて」云ふあの映畫が面白く出來た云ふのみでなく、金森氏が此の嚴肅すぎる土木學會に立ちて、眞劍に工事狀況の映畫に對する自分の努力を發表された事である。

## 工 人 俱 樂 部

工人第四十三號は治水宣傳號として發行された。卷頭原口氏の治水政策確立に關する論文がある。願くば此號をして日本の政治家に眞面目に讀まし度いものである。次に同號で技術者の資格檢定試験受験者募集の廣告を發表された。願書呈出期限は四月三十日で試験期日は五月二十二日より三日間である。現場工事に當つてをる若き人々は此際大いに力試しに出らるゝ事と思ふが、同時に又工事現場の先輩者が進んで此等の人々に便宜を與へ又此種の催しに應ずる様充分に奨励せられん事を望む次第である。